

施設関係者評価表

社会福祉法人 博乃会

認定こども園 日吉台保育園

令和3年度 施設関係者評価表

社会福祉法人 博乃会 認定こども園 日吉台保育園

1、本園の教育・保育目標

日吉台保育園の目標「知育・体育・徳育」の三本の柱を基に「頭の良い子に」・「心の豊かな子に」・「意欲溢れる子に」バランス良く成長出来るように、一人一人の職員が目標を意識して計画立てて保育を行った。

毎日の生活の中では、規則正しい生活習慣の確立を目指すと共に、礼儀作法等を丁寧に伝える事で、自分たちで考える力を養ってきた。

行事に向けては、昨年度、新型コロナウイルス感染症拡大予防に伴い様々な行事を延期、又は中止してきた反省点を踏まえて事前に全職員で意見を出し合い、協力して取り組みは例年通り行い、その中で感染予防が出来るものに関して協議し、実施直前まで出来る方向で準備を進めた。

披露できない行事が多くあったが、運動会は、業者にDVDを作成してもらい販売した。また、4, 5歳の保護者に関しては、合同生活発表会を観覧してもらい、その他のクラスは、運動会同様業者に撮影を依頼し、販売を行った。

今年も、新型コロナウイルス感染症に伴い、ほとんどの行事が無観客で進めてきたが、ソーシャルディスタンスと換気や検温など消毒や3蜜を防ぐ事で予防に努め、去年に比べると披露する機会も増えた。年長児クラスのみ保護者の前で披露した。来年度に向けては、教養や音楽等の内容を更に充実させる事が出来るよう、全職員の意識を高め、教育・保育の質を向上していく。

今年と同様に感染症に対する予防と非常時の危機管理について、子どもの引き渡し方法を含めたマニュアルを周知徹底していく。

2、本年度、重点的に取り組む目標・計画

幼児期の教育及び保育が生涯にわたる人間形成の基礎を培う重要なものであることを踏まえ、就学前の子どもに関する教育、保育等の総合的な提供の推進に関する法律の一部を改正する法律第2条第7項に基づき、義務教育及びその後の教育の基礎を培うものとして満3歳以上の子どもに対する教育並びに保育を必要とする子どもに対する保育を一体的に行い、これらの子どもの健やかな成長が図られるよう適当な環境を与えて、その心身の発達を助長するとともに、保護者に対する子育ての支援を行っていく。

全職員が教育・保育目標と教育・保育方針を再度念頭に置き、向上心と高い目標を持ち、円滑に保育園を運営していく。また、姉妹園である認定こども園日吉台幼稚園の中に小規模園を設営していく為、より一層の協力体制を整えていく。行事の際にはお互いの意見や反省、見直し点を話し合い、全園がより良い教育・保育環境の中で子ども一人一人の日々の生活や行事を進めていく事が出来るようにする。

3、評価項目の達成及び取組状況

評価項目	取組状況
本園の教育・保育課程の編成・実施に関して、職員間の共通理解をはかる。	教育・保育要領の理解を全職員で、積極的に推進し、それを現実の保育に添わせるように、具体的な場面について月1回の管理職会議・合同職員会議・職員全体会議及び年3回の乳児・幼児会議で話し合いを行っている。
認定こども園の状況をふまえて、中・長期的なビジョンと計画を策定する。	認定こども園に求められる社会的なニーズも変化してきている。こうした背景を踏まえて、本園がこれから長期的にどのような社会ニーズに答える必要があるか、具体的に検討をしている。
教育・保育の質の向上のために、園内外研修を充実させる。	<p>研修計画を立て、定期的実施している。</p> <ul style="list-style-type: none"> ■保育内容研修（立案、文章表現） ■新人接遇研修 ■CPR研修、SIDS研修 ■音楽研修 (お遊戯、リトミック、鼓笛隊、カラーガード、合奏、民族芸能和太鼓等) ■栄養士研修 ■造形研修 ■人権研修
保護者のニーズの把握につとめ、要望や苦情に適切な対応をはかる。	保護者参加の行事や年4回の参観日、年2回の個人懇談会を実施、年長児の保護者にアンケートを実施している。出された意見に対して、必要なものについては園の考え方を示し、改善すべきものは改善するように取り組んでいる。
職員の指導能力向上をはかる。	<p>各種研修会に参加し、学んだことを全職員で共有することで、専門分野への知識の向上に努めている。</p> <p>年間を通じて専門の先生に指導を受けることで技術向上を図っている。</p> <p>毎日のミーティングで日々の子どもの姿、又は保護者からの意見・要望について、報告・連絡・相談の場を設けて情報を全員が共有する環境を作っている。</p>
権限委譲と人材の育成をはかる。	<p>各分野別のマニュアルを実践することで、基本的な仕組みや流れを知り、そこから自分で考え工夫するシステムを採用している。</p> <p>その中で適材適所に合わせて各人の得意分野を引き出し、存在意義・責任感を持つようにしている。</p>
園児に接する時の基本姿勢を周知徹底する。	<p>特に、言葉使いの適正を意識し、親切かつ丁寧な接し方を再確認の上、実践するように努めている。</p> <p>一人一人の子どもの長所を認め、職員が公平かつ客観的に園児を見る目を養うように努めている。</p>

食育に関する実践を充実させる。	旬の食材を生かし、年中行事に応じた季節を感じるできるよう献立を工夫している。 家庭に対し、献立のみではなく健康や栄養情報の知識や食事作りのアドバイスを実施し連携を取っている。
本園の情報を発信する。	本園の教育方針や取り組み状況を園だより・クラスだよりや掲示、その他のプリントで情報発信している。

4、学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

取り組むべき課題について、全職員の研修等で意見交換の出来る場を設け、その課題について職員全員で理解をし、取組状況を話し合う事で、本園としての方針を明確にすることができ、それを実践する礎とすることが出来た。

職員各自が教育の資質向上に取り組み、時には主任の指導を受けながら、それぞれの得意分野で充実した保育ができていた。

専門の先生に指導を受ける事で担任の指導に幅が出来てきた。又、子ども達の教育・保育に取り組む姿勢や発言、行動力から意欲的に取り組んでいる様子が見えてきた。

5、今後取り組むべき課題

課題	具体的な取り組み方法
安全管理の向上	危機管理研修を行い、想定できる危険に対して万全の態勢をとれるように準備をしている。 遊具の点検及び園舎・園庭などに危険な箇所がないか日ごろから管理に努めている。(毎日、点検記録をつけて管理していく) 消防署の立会い避難訓練を実施して、指導も受けながら避難訓練の内容充実を図る。
自然災害時の危機管理体制の構築	非常時の危機管理について、子どもの引き渡し方法を含めたマニュアルを定期的に職員間で確認を行う。
保護者への情報提供とより正確な要望把握	保護者との個人懇談会をとおして一層の情報収集を充実していくとともに、行事等についても意見聴取をする。 出された意見に対しては十分検討し、必要なものについては本園の考え方を示し説明を加えて理解を得られるよう最大の努力を重ねる。改善すべきところは、的確かつ迅速に改善する。 当園の教育方針に則しつつも、子育て中の保護者が期待するところを把握し、園を取り巻く環境や子どもの実態に即した新たな指導計画の編成に取り組んでいく。

1. 学校関係者の評価

全職員は、各クラスで教育・保育案を立案し、実践している。また、実践の中で気付いた点などを反省、改善し向上出来るように進めている。常に子どもを第一に考え、より良い環境を整えるために必要な事と一人一人が多くの経験出来るように努めているところが賛同できる。

また、新型の感染症に対する対策も法人全体で取り組んでいる事が良くわかる。また、近年の気候変化や環境状況に応じて健康管理を考え、子どもへの視診などにも十分に気をつけて取り組んでいる。

なお専門分野における知識不足や経験不足が感じられる場合、個別に学習すると同時に他の職員ともミーティングの場で意見交換して補足をしている。

以上のように各領域において向上心を持ち、熱心に研修に取り組む姿勢が認められる為、特に指摘する事項はない。

来年度に向けてもより向上をめざし、一人一人の子どもを大切に保育を行っていく事を望む。